

令和5年9月13日（水）に開催した令和5年度第6回公立大学法人静岡文化芸術大学役員会の結果は次のとおりである。

1 議案

(1) 専任教員の採用について

ア 趣旨

事務局から、4月12日の役員会で承認されたデザイン学部1名（分野：金工分野）の専任教員公募の採用候補者を選考する面接を実施し、1名の候補者が決定したので、その採用を提案する旨、候補者の応募書類をもとに説明があった。

イ 主な意見・質問

・作品も素晴らしい。着任後の抱負を見ても、学生に対して、過去の体験等も踏まえ、適切に接してくれることが期待出来る。

ウ 審議結果

審議を踏まえ、議決された。

(2) 公立大学法人静岡文化芸術大学臨時職員就業規程の一部改正について

ア 趣旨

事務局から、静岡県内の最低賃金が令和5年10月に改定（時間額 現行944円→984円）されることから、公立大学法人静岡文化芸術大学臨時職員就業規程に規定する臨時職員の基本賃金額を見直す旨の説明があった。

イ 主な意見・質問

特になし

ウ 審議結果

審議を踏まえ、議決された。

2 報告事項

(1) 理事長の専決処分の報告について

事務局から、東アジア文化都市2023専門協働プログラムの採択に伴い増加した補助金について、理事長の専決処分により、収支予算の増額補正を行ったと報告があった。また、採択されたプログラム「ものづくり展」の概要の紹介があった。

(2) 令和4事業年度に係る業務の実績に関する評価について

事務局から、静岡県公立大学法人評価委員会より通知のあった令和4事業年度に係る業務の実績に関する評価に関する評価結果について、以下のとおり報告があった。

令和4事業年度に係る業務の実績については、全体として「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」との評価結果であった。自己評価がAからSに変更されたものが1項目、SからAに変更されたものが3項目、AからBに変更されたものが2項目であった。

評価に当たっての評価委員会の意見として、理事長が学長を兼務する組織体制における適正なガバナンスの確保、学際的な教育研究の推進への期待が示されている。また、年度計画の策定にあたり中期計画の着実な達成につながる具体的な取組を記載することを求められた。

今回の評価結果、意見は、今後策定する次年度計画や業務改善に反映していく必要がある。

（意見）

・公平、公正に評価をされていると思う。

(3) 令和4事業年度に係る財務諸表及び利益の処分の承認について

事務局から、静岡県知事より令和4事業年度に係る財務諸表及び利益の処分について承認された旨の報告があった。当期総利益の処分として74,836,147円の目的積立金（教育研究の質の向上及び組織運営改善積立金）への積立が承認された。

(4) 2023年度オープンキャンパス実施報告

事務局から、8月5日（土）、6日（日）に、4年ぶり完全対面で開催されたオープンキャンパスについての実施報告があった。

（意見）

- ・全国から来場しており、大学の認知度が高いといえる。
- ・オンライン等の活用により、遠方の人も含め、より多くの方がオープンキャンパスを見ることができると更によい。

以上